2023年度 学校評価

NHK 学園高等学校　校長 森川 覚

NHK 学園高等学校は、2023年度の学校評価において、スクールミッションおよびスクールポリシー、事業計画、それに前年度の学校評価で明らかになった課題を踏まえて、以下の4つの評価項目を定め、生徒、保護者、教員を対象にアンケートを実施しました。そこで浮かび上がった課題について、教員間で討議し改善策を検討した上で、第三者評価委員会に諮り、その指摘を踏まえて、次年度に取り組むべき課題と改善策をまとめました。

なお、評価項目ごとの達成度については、生徒アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合の平均値をもって、評価しました。回答した生徒数が、在籍生徒の半数に満たないアンケートですが、数値でお示しできる一つの指標として、「次年度への課題と改善策」とあわせてお読みください。

「スクールミッション」

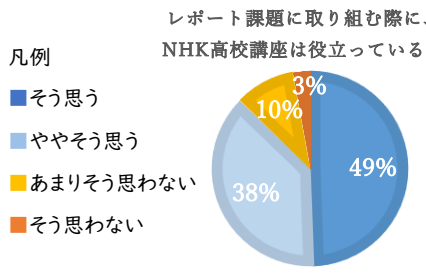
NHK と連携し、放送やインターネットなどの多様なメディアを利用することで、
学ぶ意欲と高校卒業の意思を持つ人に、「いつでも、どこでも、だれにでも」学ぶ機会を提供し、
自立して未来を生き抜くための基盤となる力を身につけていく学校

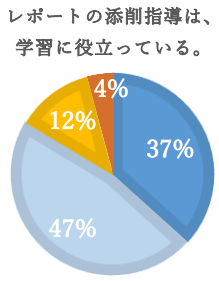
評価項目

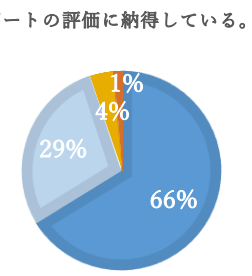
			達成度　生徒アンケートの回答平均値
1	学習指導	「放送視聴」「レポート」「スクーリング」「試験」によって生徒の意欲的・自主的な学習を推進し、基礎学力向上を図る。	「そう思う」＋「ややそう思う」
2	生徒サポート	生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるようチームサポート体制の充実を図る。	A：平均 80%以上
3	進路指導	生徒が各々の進路目標を実現できるよう進路指導体制の充実を図る。	B：同 60%以上
4	学校全般	高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体でスクールミッションの実現に努める。	C：同 40%以上
			D：同 40%未満

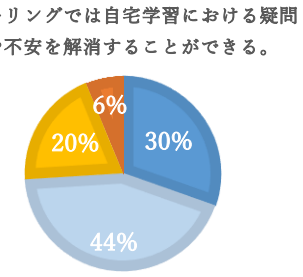
回答数　　生徒　1,481 人（47%）

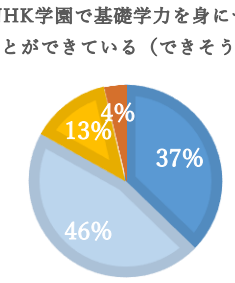
1 学習指導





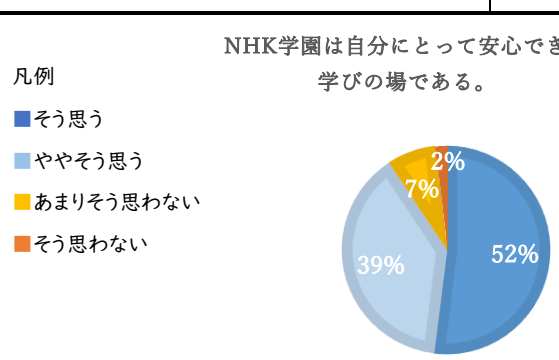


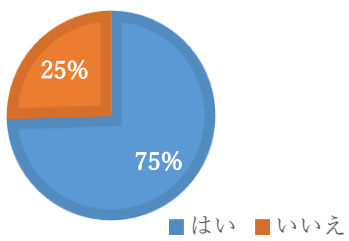


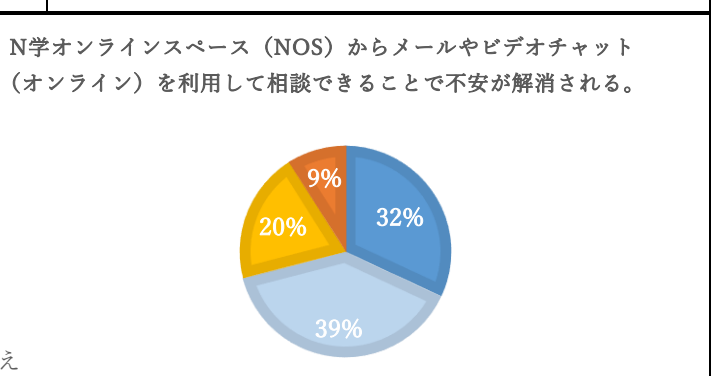


課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
・レポート課題やスクーリング（面接指導）のあり方について、研究を継続するとともに、教員研修を充実させ、添削指導を受けた後に生徒が自ら復習に取り組むための支援も含め、指導全体を通しての学習の定着と学力の向上への方策を改善する。 ・教員が制作する「オンラインサポート動画」を質・量ともに充実させ、年間の指導計画の中により適切に位置づけ、利用率の向上を図る。 ・「観点別評価」の手法を検証し、新教育課程が全面実施される2024年度以降の評価手法を確立する。 ・現在のネット学習システム（NOS）によるレポート学習等の効果を検証し、2024年度運用開始の新NOSを、さらに学習しやすいものになるよう開発する。	・新教育課程科目のレポート課題は、NHK高校講座の放送回にそれぞれ紐づいた、これまでよりも細分化したユニットごとに作成し、生徒は必ず各回の放送を視聴した上で、当該ユニットのレポートに取り組むものとした。教員がシステム上で生徒の視聴履歴を確認できる一方で、生徒はユニット単位で学習に取り組み、よりきめ細かな添削指導を受けられることから、スモールステップでの学習到達を実感できるようになった。面接指導を軸とした教科・科目での研修を充実させた。 ・「オンラインサポート動画」は、「通信教育実施計画」に年 3 回程度実施すると位置付け、質・量の充実を図った。 ・「観点別評価」においては、生徒の学力を知識の習得に限定せず多角的なとらえられるよう、2024年度からは、レポートの各設問を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点別に振り分けて評価する手法を確立し、2024年度から全科目で実施することになった。 ・新NOSは、多角的な「観点別評価」に対応してレポートの設問ごとに評価の観点を設定できる仕組みとした。また、生徒にとっても学習のねらいがわかりやすく、学習しやすいものに工夫した。	A	・2024年度は、すべての年次の生徒が新教育課程となり、レポート課題の細分化の完成年度を迎えるため、改めてその効果を検証し、より生徒の学力向上につながるよう工夫する。 ・スクーリングに対する評価が高校講座やレポート添削指導に比べて依然として低い。研修をより充実させ、指導力の向上に取り組む。 ・「オンラインサポート動画」が学力向上に直接結びつく、と回答した生徒の割合が、放送視聴、レポート、スクーリングと比較すると低い。視聴が義務ではないためとも考えられるが、生徒にとって活用する価値のあるものになるようさらなる工夫・改善を図る。 ・新NOSで、各観点に基づく学習内容を適切にデザインした教材を配置し、新たな手法で観点別評価を実施する。それを検証して、多角的にとらえた「学力」の向上をめざす。

2 生徒サポート





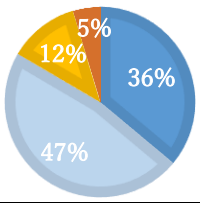


課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
・全国のスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）が情報交換する場を設け、生徒・保護者の抱える課題を整理・共有して、生徒をサポートするネットワークを強化する ・東京本校のSC、SSW、養護教諭から発信する情報が全国の生徒・保護者に確実に届くよう、情報発信方法を工夫する。 ・SC、SSW、養護教諭の認知度を向上させる。 ・自分から意思疎通を図るのが苦手な生徒たちに対し、特別活動や総合探究の時間を通して、コミュニケーション力の伸長を図る。 ・特別活動の目標を「自立と交流」と定めて、対面とオンラインそれぞれで系統立てた指導を行う。外部の優良コンテンツも計画的に活用し、全国の生徒が交流できる機会を創出する。	・7月に全国のSC、SSWによる協働会議を開き、各協力校での課題を共有し、解決方法を話し合うとともに、協力校でも「チーム学校」の体制で生徒サポートに取り組んでいくことを確認した。また、生徒の学習状況を各地のSCが把握できるようにNOSのアクセス権を付与した。 ・各地のSCが他地域のSCと連絡がとれるように、Teams を利用した全国の SC・SSWのネットワークを構築した。 ・本校SCによる保護者向け講座（5回連続）、本校保健室主催の「いのちの授業」を、NOSを使って全国の保護者・生徒へ配信した。 ・各地のSCが地域の生徒・保護者に向けて「通信」を発信することを奨励し、SCの認知度向上に努めた。 ・コミュニケーション力の向上を図るため、2024年度から新たに設置する学校外学修科目「コミュニケーションスキル」の教材（紙テキストと動画）の制作に協力した。 ・特別活動プログラム検討PTを立ち上げて、外部コンテンツ「インスパイアハイ」を活用した特別活動を、年間を通して計画的に 5 回実施し、全国の生徒が参加し、交流できる機会を作った。	B	・担任以外にも相談できる人がいることが心理面での安心感につながるよう、SCやSSWの存在をさらにアピールしていく。 ・Teams 会議を年数回実施し、ネットワークを維持強化する。 ・本校SCから発信した保護者向け講座などの動画は、保護者・生徒にとって有益な内容だったが、残念ながら視聴は一部にとどまった。NOSの学習以外の活用度を上げることで、サポート体制も充実していることを知ってもらえるようにする。 ・各地域のSCからの発信物が、必要とする生徒に必ず届くように発信方法も含め再検討する。 ・開講する「コミュニケーションスキル」を活用するために教員体制を整え、安定した指導につなげて、生徒のコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・居住地や所属する協力校の枠を超えた生徒間の交流など、広域通信制の強みを活かしたオンラインでの特別活動を拡充し、対話的で深い学びの場を提供する。

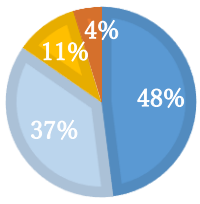
3 進路指導

凡例
■そう思う
■ややそう思う
■あまりそう思わない
■そう思わない

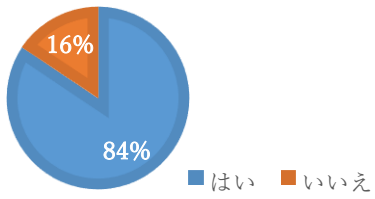
進路についての先生の指導やアドバイス、学校の取り組み（説明会などの学校行事や情報提供）に満足している。



自分のやりたいことを見つけることができている（できそうだ）。



N学オンラインスペース（NOS）は利用しやすい。

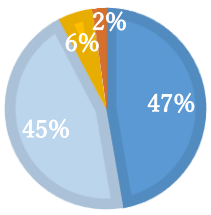


課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
・保護者への情報発信のあり方を整え、生徒、保護者、教員の三者面談の機会を増やすなど三者が連携することで、より生徒にあった進路選択を実現する。 ・新たに適性検査などの客観性の高いデータも活用して、生徒一人ひとりにあった進路指導を実現する。 ・NPO法人や大手予備校、地域のボランティアなどとの協力をさらに強化し、様々な角度から生徒のニーズを探り、適切な進路選択と進路実現につなげる。	・本校で実施している気軽な進路相談「あすなろカフェ」は、オンライン化により、協力校の生徒にも参加が広がった。 ・進路指導のための適性検査「学びみらいPASS」を一部の協力校の生徒および本校火曜１年次に試験導入した。客観的に自分をみつめることが可能となり、それをもとに担任が三者面談やネットHR等を実施し、生徒指導、進路指導を行った結果、進路実現に結びつくという成果も確認できた。 ・受験対策や学び直しのための学習ができる自習ツールを比較検討し、予備校の人気講師の講義などがオンラインで配信される「スタディサプリ」の導入を決めた。受講は希望者とするが、活用に向けて教員による支援の体制をつくった。 ・受験に向けての講演会を年間4回、大手予備校から講師を招いて実施した。また、オンラインで全国配信し、協力校の生徒も参加できるようにした。	A	・「あすなろカフェ」を運営するNPO法人との連携を強化し、総合型選抜や学校推薦型選抜で求められる「自分の強み」を生徒が見つけられるように、指導、助言を行っていく。 ・「学びみらいPASS」を１年次より年次移行で導入していく。これをもとに全国でネットHRや三者面談（対面に加えオンラインも活用）を実施し、進路指導はもとより、学習指導、生活指導にも活かしていく。 ・「スタディサプリ」を導入し、受験対策や実用英語検定などの検定対策、小中学校からの学び直し等、生徒が個々のニーズに応じて学習に取り組み、進路実現に結びつけられるように指導する。 ・他の予備校等とも連携して生徒の進路実現に役立つよう、講演会をさらに充実させていく。

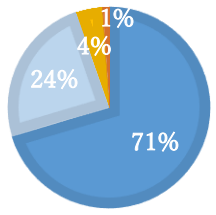
4 学校全般

凡例
■そう思う
■ややそう思う
■あまりそう思わない
■そう思わない

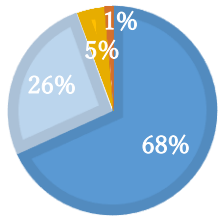
学校の雰囲気や学習内容は、NHK学園のホームページや案内書のイメージ通りだった。



周りにあわせなくてもいい自由な雰囲気の中で自分のペースで学習できている。



NHK学園高等学校に入学して良かった。



課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
・「基礎学力が身についた」「相談相手がいる」「進路指導の取り組みに参加した」と回答した生徒ほど、総合的な満足度が高く、今後も、学習指導、相談体制、進路指導の充実に一層力を入れていく。 ・NOSの機能を知っていると答えた生徒は、学習指導、生徒サポート、進路指導、学校全般のどの項目についても肯定的評価をする割合が高い。生徒全員がNOSを使いこなすことができるよう、学習方法の指導を徹底していく。 ・NOSが保護者にとっても、生徒の学習状況を確認し、学校からの有益な情報を得ることができるツールであることを周知徹底し、保護者の利用率を向上させる。 ・志願者の状況と選択したコースのミスマッチが生じないように、各コースの教育の具体的な内容や特色を、説明動画を充実させるなどして、よりわかりやすく伝える。	・レポート細分化などによるよりきめ細かな学習指導、担任、SC、SSWなどのチームでの生徒サポート体制の強化、キャリアコンサルタントを擁する NPO 法人や大手予備校とも連携した進路指導の充実に取り組んだ。 ・NOSについては、利用を開始するためのわかりやすいマニュアルを作成して、オンライン上に公開した。また、教員やヘルプデスクが、困っている生徒一人ひとりに取り組み方を説明し対応した。 ・登校コースの入学選抜において、推薦入学希望者には本校での説明会への参加に加えエントリーシートによる事前面談を実施し、コースへの理解を深める機会を増やした。また、推薦を出す中学校の担当教員とも事前相談を実施することで学園やコースへの理解を深化することができた。8～9月には管理職による登校可能な地域の中学校訪問を実施し、登校コースの変更点について周知した。 ・ライフデザインコースの紹介動画を新たに作成してHPに掲載し、2024年度の志願者からは、この紹介動画の視聴を必須とするなど、各コースの内容や特色をわかりやすく伝え、よく理解した上で出願してもらえるようにエ夫した。	A	・新NOSは、パソコンだけではなく、タブレット端末やスマートフォンにも対応しているため、いつでもどこでも、ちょっとした隙間時間での利用が可能となる。学習を進める基幹システムとしては勿論、学校からの情報を伝えるコミュニケーションツールとしても最大限活用する。また、困ったことがあれば、生徒は手軽にチャット（Teams)で質問することもでき、こうした機能を丁寧に周知して、利用率の向上を図る。 ・保護者に対しても、引き続き、NOSが有益な情報を得ることができるツールであることを周知して活用を促進する。加えて保護者に確実に情報を伝達するためのより有効な方法も検討する。 ・東京本校への登校が可能な地域にある中学校をできるだけ訪問し、登校コースの推薦入学や各コースの特色について丁寧に説明し、個々の生徒に最も合ったコースを選択してもらえるよう努める。 ・学園の魅力が十分に伝えきれていないという課題が指摘された。特色ある教育活動や手厚いサポート、在校生・卒業生の活躍などを効果的に発信して認知度を高める。

第三者評価委員からの指摘・評価等

〇生徒回答率 47%は、通信制という学校の特性を考えると一概に低いとは言えない。未回答者の中には、回答したくない、あるいは、生徒自身が困難な状況に置かれているケースが多い。

〇多くの生徒が「学力を身につけた」と答えており、NOSを使って学習することで知識の部分は身についている。より効果的に学力が身につくように、NOSの利用をもっと工夫していければよいと感じる。また、学力のとらえ方が広くなっているので、身につけた知識を生徒自身が自分なりにどのように活かし、結果として何ができるようになったのか、知識量に限定せず生徒が自身の伸びを実感できている点を多角的に見ていく必要がある。

〇個別最適な学びであり学習者が主体である、という観点から通信制に通う生徒の割合が増えてきた。生徒の個別の学びを伸ばしているかどうかという視点も大切である。学園の取り組みは非常に魅力的で、それをしっかりアピールしたほうがよい。

〇学力向上につながった項目のうち、オンラインサポート動画に対する評価が低い理由も分析しておく必要がある。

〇SCの認知度が低いという点について、通信制高校にはSCがいないという認識の生徒が多い。担任からの声かけで生徒の利用につながることが多いので、SC や「あすなろカフェ」の生徒認知度をあげるためには担任に担当者等がわかりやすく活用を伝えていくことが大切である。

〇「学びみらい PASS」という外部サービスを導入するにあたっては、どのように指導に役立てるかという意識を持つことが重要である。

〇保護者にも通信制高校を正しく理解してもらうため、スクールポリシーや学習方法、学園の取り組みなどを保護者に周知する場が必要だ。

〇他校では保護者会をオンラインで実施したところ、対面よりも参加者が多かったという事例がある。オンラインでの保護者会も検討してはどうか。

〇保護者への連絡手段については、書面にこだわらず、メールや YouTube、オンライン配信など、状況に応じてさまざまなツールを使って確実に届けられることが大切である。

〇生徒・保護者にとって魅力的な学校を目指すだけでなく、働く教職員にとっても魅力的な職場を目指すという視点も大切である。

〇アンケート結果を受けて教員が討議した上で出してきた改善策を見て、教員が主体的に課題に向き合っていると感じた。これを継続することによって学園をより良くしていけると思う。

<2023 年度 第三者評価委員（五十音順 敬称略）

・荒西 岳広 委員 国立市教育委員会 教育指導支援課長

・井村 良英 委員 認定 NPO 法人育て上げネット 執行役員

・小宮山 英明 委員 全国高等学校通信制教育研究会 事務局長

・田中 一郎 委員 国分寺第五中学校 校長（北中校長会 会長）

・山田 哲也 委員 一橋大学大学院 社会学研究科・社会学部 教授